

グローバルビンゴ

組 番 氏名

ルール

1. 下の質問に答えられそうな人をさがします。
2. お互いに質問を1つずつ出し合います。どの質問でもOKです。
3. 質問に答えられたら、その答えと人の名前を書きます。答えられなかったら空欄。
4. 縦、横、斜め、どれでも4つ記入されたらビンゴ!!
5. ビンゴになる4つの質問に、同じ人の名前があってははいけません。
6. ビンゴになる4つの質問のうち、2つ以上は異性に記入してもらおう。
7. 1つのビンゴがそろったら、黒板に名前を書く。その後、2つめのビンゴを目指してゲームを続ける。
8. 時間になったら終了。
9. 多くビンゴになった人の勝ち。

| | | | |
|----------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|
| 日本以外の国に行った事のある人 | 学校以外で外国人に話しかけたことのある人 | 日本製品以外のものを自分で持っている人 | 外国のミュージシャンの名前を言える人 |
| 氏名 | 氏名 | 氏名 | 氏名 |
| 国 | 国名 | 国名 | 国名、なまえ |
| 日本語以外の言葉で、ありがとうの言える人 | アジアの日本以外の国を3つ以上言える人 | 外国に手紙・Eメール電話をしたことのある人 | 国際連合の事務総長の国名と名前が言える人 |
| 氏名 | 氏名 | 氏名 | 氏名 |
| 言葉、国名 | 国名 | 国名 | 国名、なまえ |
| 最近外国で起こった出来事を言える人 | 外国の有名な観光地を言える人 | 海外ボランティアに興味のある人 | 中・南米の国の名前を2つ言える人 |
| 氏名 | 氏名 | 氏名 | 氏名 |
| 国、出来事 | 国、観光地名 | 国、内容 | 国名 |
| 外国の映画スターの名前が言える人 | 外国の伝統楽器の名前を言える人 | アフリカの国の名前を2つ以上言える人 | 外国の企業の名前が言える人 |
| 氏名 | 氏名 | 氏名 | 氏名 |
| 国、なまえ | 国、楽器名 | 国名 | 国、企業名 |

1. 目的等

グローバルビンゴは、地理的分野「世界の国々」や公民的分野「地球社会とわたしたち」の導入として使うことが出来ます。どこで使うのかによって目的は違ってきますが、地理的分野であれば、世界の国々の名前と位置を学習する導入になるでしょうし、公民的分野であれば、自分と世界のとの繋がり（グローカリズム）を認識し直す機会としても活用できると思います。

2. 授業の流れ（文末の括弧は、時間）

（1）授業の準備

- ①机やいすは廊下に出したほうが活動しやすいです。生徒が多くない場合は、出さなくても何とかありますが。
- ②持ち物は、鉛筆など1本とグローバルビンゴのプリント1枚。

（2）ゲームの実施

①ゲームの説明（5分）

- ・下の質問に答えられそうな人をさがします。
- ・お互いに質問を1つずつ出し合います。どの質問でもOKです。
- ・質問に答えられたら、その答えと人の名前を書きます。答えられなかったら空欄。
- ・相手が質問に答えられても答えられなくても、質問は1度ずつしかできません。
- ・項目の上の段には、答えてくれた人がサインをします。下には、聞き取った人が国名などを記入します。
- ・縦、横、斜め、どれでも4つ記入されたらビンゴ！！
- ・ビンゴになる4つの質問の列や行に、同じ人の名前があってははいけません。
- ・ビンゴになる4つの質問の列や行のうち、2つ以上は異性に記入してもらおう。
- ・1つのビンゴがそろったら、黒板に自分の名前を書く。その後、2つめのビンゴを目指してゲームを続ける。
- ・時間になったら終了。（10分程度）
- ・多くビンゴになった人の勝ち。（勝ち負けが目的ではありませんが、勝ち負けをつけることで、積極的に行動する生徒が多くなります。）

最後に質問を受け付け、「ルールを守る大切さ」を話してください。

②ゲーム（10分程度）

- ・指導者は、巡回しながら励ましや質問（やっているうちに湧き出す質問）に答えてください。
- ・アフリカの国名など、間違える可能性もありますので、チェックもしながら指導をしてください。

③評価・講評等（5～10分。ただし、机・いすの搬入があれば、もう少し必要です）

- ・観点別の評価基準では、「興味・関心・意欲」になりますが、みんな熱心にやってくれます。
- ・私は、1つビンゴになった生徒、2つビンゴになった生徒・・・で拍手させました。結構嬉しそうでした。
- ・簡単だった項目や難しかった項目を言わせ、なぜ難しいのかを考えさせても良いでしょう。

（3）ゲーム後

先述したとおり、地理で扱うのか公民で扱うのかによってゲーム後の流し方は違うと思います。しかし、ゲームであげられた国名を地図帳で位置の確認することは必要だと思います。

3. その他

16個あるグローバルビンゴの項目は、もちろんアレンジが可能です。私は、この授業の数時間後に国際連合のしくみを学習することから、国連事務総長の名前を組み入れました。また私自身、JICAとの関わりや国際理解教育を実践していること、ODAも今後学習することから、海外ボランティアの項目も入れてあります。しかし、この2つの項目は生徒にとっては難しかったようです。特に事務総長は、アナンさんから潘さんにかわったばかりですから。

このビンゴゲームは、国際理解教育セミナーのアイスブレイクとして使えます。また、16の項目を国際理解・開発教育以外にすれば、学級開きのときにも使えますし。アイスブレイクや学級開きの時には、握手や簡単な自己紹介も良いですね。今回は、お互いに知っている生徒なので省きました。